

3 専門分野



| | |
|--------------|-------------------------------|
| 授業科目名 基礎看護総論 | 第二看護学科 1年次 前期 1単位（15時間） |
|--------------|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|---|
| <p>ねらい</p> <p>看護学の導入として、看護の定義・概念、歴史的変遷、看護専門職の役割・活動、対象者の理解、看護実践を支える法律や制度などを学ぶことで、「看護とは何か」を知り、看護の全体像を理解する。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間を身体的・心理的・社会的側面から考え、人間は統一体として存在することを理解できる。 2) 人間の尊厳について深く考えられる。 3) 看護と健康の概念が理解できる。 4) 看護倫理について理解できる。 5) 看護の機能と役割が理解できる。 |
|---|

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|---|------------------------|-------|----|
| 1 | 看護の本質 | 講義・演習 | |
| 2 | 看護の基本概念① | | |
| 3 | 看護の基本概念② | | |
| 4 | 看護の基本概念③ | | |
| 5 | 看護における倫理 | | |
| 6 | 看護の役割と機能 | | |
| 7 | 看護の継続性と連携 看護の提供のしくみ | | |
| 8 | まとめ | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| |
|---|
| <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 フロレンス・ナイティンゲール著 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会 よくわかる看護職の倫理綱領 第3版 照林社 副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会</p> |
|---|

IV. 成績評価の方法

| |
|---------------|
| 筆記試験、提出物、参加状況 |
|---------------|

| | |
|--|--------------------------------|
| 授業科目名 基礎看護方法論 I - 1 (活動と休息を整える、清潔を保つ援助) | 第二看護学科 1年次 前期 1単位 (30時間) |
|--|--------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|--|
| ねらい 人間が社会生活を営む上で行われる心身の活動により、疲労を蓄積させないよう活動と休息のバランスを考えた行動の必要性とその援助方法を理解する。人と環境の関係を理解し、健康的な生活環境を整えるための基礎的知識と援助方法を習得する。皮膚と粘膜の保護及び清潔保持に関する生理学的メカニズムを理解し、清潔に関するニーズをアセスメントし、対象に応じた効果的・効率的な援助方法を選択することができるよう、人々が健康な生活を送るために必要な援助を理解する。 |
| 目 標 1) 対象者の日常生活がどのように営まれているか、その目的や意味について考えられる。 2) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。 3) 原理原則を踏まえ対象の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。 4) 看護に必要な態度について深く考えられる。 5) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。 |

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|---------------------|-------|----|
| 1 | 安全・安楽とは | 講義 | |
| 2 | 安楽の援助 電法 部分浴 | 演習 | |
| 3 | 清潔の意義・衣生活の意義 | 講義・演習 | |
| 4 | 臥床患者の全身清拭・寝衣交換① | 講義・演習 | |
| 5 | 臥床患者の全身清拭・寝衣交換② | 講義・演習 | |
| 6 | 臥床患者の全身清拭・寝衣交換③ | 演習 | |
| 7 | 臥床患者の洗髪 | 講義 | |
| 8 | 臥床患者の洗髪 | 演習 | |
| 9 | 臥床患者の洗髪 | 演習 | |
| 10 | 環境の意義 | 講義 | |
| 11 | 臥床患者のシーツ交換① 演習 | 講義・演習 | |
| 12 | 臥床患者のシーツ交換② 演習 | 講義・演習 | |
| 13 | 活動・休息 ボディメカニクス 体位変換 | 講義・演習 | |
| 14 | 活動・休息 移乗と移送 | 講義・演習 | |
| 15 | 活動・休息 休息と睡眠 | 講義 | |

III. 使用テキスト・参考文献

| |
|---|
| 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 |
|---|

IV. 成績評価の方法

| |
|--|
| 筆記試験、技術試験、提出物、参加状況 *筆記試験・技術試験両方合格することで、単位修得とする。 |
|--|

V. 実習との関連

| |
|---|
| 成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習 I を履修することができない。 |
|---|

| | |
|---|--------------------------------|
| 授業科目名 基礎看護方法論 I - 2 (食事・排泄の技術と診療の補助技術) | 第二看護学科 1年次 前期 1単位 (30時間) |
|---|--------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|---|
| <p>ねらい</p> <p>人は生命を維持するために必要な物質や栄養素を取り入れ、不必要な物質や有害物質を体外に排出しており、成長・発達し、健康を維持し、生命活動を継続するために必要な食事・栄養や排泄の意義を学び、健康障害によりそれらに制限が加わる人のニーズに対して多面的にアセスメントし、効果的な援助方法を理解する。また診療の補助として行う検査、与薬の意義と看護師の役割を理解し、倫理的配慮を行いながら対象者の安全・安楽を考慮した援助の方法について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の日常生活がどのように営まれているか、その目的や意味について考えられる。 2) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。 3) 原理原則を踏まえ対象の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。 4) 看護に必要な態度について深く考えられる。 5) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。 |
|---|

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|---------|------------------------|-------|
| 1 | 食事・栄養 | 食事の援助・栄養アセスメント | 講義 |
| 2 | | 食事の援助方法・実施 | 講義・演習 |
| 3 | | 経管栄養法① | 講義・演習 |
| 4 | | 経管栄養法② | |
| 5 | 排泄 | 排泄の援助① | 講義 |
| 6 | | 排泄の援助② | 演習 |
| 7 | | 排泄の援助方法・実施① 床上排泄・浣腸・摘便 | 講義・演習 |
| 8 | | 排泄の援助方法・実施② 導尿 | |
| 9 | 検査時の看護 | 検査時の看護 | 講義・演習 |
| 10 | | 採血 | |
| 11 | 与薬時の看護 | 与薬時の看護の役割 | 講義 |
| 12 | | 経口法、直腸内与薬法 | 講義・演習 |
| 13 | | 注射法① 皮下、筋肉内注射 | |
| 14 | | 注射法② 静脈、中心静脈栄養法 | 講義・演習 |
| 15 | | 注射法③ 輸液、輸血療法 | |

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

IV. 成績評価の方法

| |
|---|
| <p>筆記試験、提出物、参加状況</p> <p>*食事・栄養 (経鼻胃チューブの挿入)</p> <p>*排泄の援助 (導尿又は膀胱内留置カテーテルの挿入、浣腸、摘便の技術)</p> <p>上記*の技術は学内演習を必要とする技術のため、欠課の場合補習が必要となる。</p> |
|---|

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習Ⅰを履修することができない。

| | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 授業科目名 基礎看護方法論Ⅱ (経過別・治療別・症状別看護) | 第二看護学科 1年次 後期 1単位(30時間) |
|-----------------------------------|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|--|
| <p>ねらい</p> <p>各病期(急性期・回復期・慢性期・終末期)にある対象の心身の状態や病状により発現する症状のメカニズムを理解し、対象に応じた援助方法を理解する。また、主な治療に対する対象の心身の変化と援助方法について理解する。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各経過の特徴を理解できる。 2) 各経過にある対象者の心理を理解できる。 3) 各経過における援助方法を理解できる。 4) 手術療法、放射線療法、化学療法における看護の役割と機能を理解できる。 5) 対象者の症状に応じた援助を理解できる。 6) 指導技術と活用方法について理解できる |
|--|

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | | 講義・演習 | 備考 |
|----|-----------|-----------------------------------|-------|----|
| 1 | 経過別看護 | 経過別① | 講義 | |
| 2 | | 経過別② | | |
| 3 | | 経過別③ | | |
| 4 | 治療別看護 | 治療別看護とは | 講義 | |
| 5 | | 手術療法①生体侵襲 | | |
| 6 | | 手術療法②手術前 | | |
| 7 | | 手術療法③手術中 | | |
| 8 | | 手術療法④手術後 | | |
| 9 | | 手術療法⑤低侵襲手術 | | |
| 10 | | 放射線療法 化学療法 | | |
| 11 | 症状別看護 | 発熱、痛み、浮腫のある患者の看護① | 講義 | |
| 12 | | 発熱、痛み、浮腫のある患者の看護② | | |
| 13 | 医療機器の取り扱い | ME 機器 心電計、パルスオキシメーター 酸素ボンベ、吸引器 | 講義・演習 | |
| 14 | | 吸引法① | 講義・演習 | |
| 15 | | 吸引法② | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| |
|--|
| <p>根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院</p> <p>看護過程に沿った対症看護 第5版 学研</p> |
|--|

IV. 成績評価の方法

| |
|---------------|
| 筆記試験、提出物、参加状況 |
|---------------|

| | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 授業科目名 基礎看護方法論Ⅲ (看護過程) | 第二看護学科 2年次 前期 1単位(30時間) |
|--------------------------|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|---|
| ねらい 科学的思考、問題解決的思考をもとに、看護の過程における思考の方法を学び、看護専門職者として患者のニーズを満たし、質を保証するケアの提供の技術を習得する。 |
| 目 標 |
| 1) 看護過程が問題解決法であり、看護の目的を遂行する為の手段であることを理解できる。 |
| 2) 看護過程を進めるにあたっての前提は、人間関係を基本に置くこと、人間を総合的に(全人的)に捉えることであることの意義を理解できる。 |
| 3) 看護過程の構成要素をアセスメント、計画、実施、評価、修正の5段階であることを理解し、構成要素をそれぞれについて理解できる。 |
| 4) POSについて理解し、記録方法の一つであるSOAPの概念と書き方を理解できる。 |
| 5) 対象者の健康障害をアセスメントするための方法を理解できる。 |
| 6) 対象者の健康を維持・回復・増進するための看護援助の計画が立案できる。 |

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備 考 |
|----|--|-------|-----|
| 1 | 看護過程とは/看護過程に必要な思考過程・理論 構成要素1:アセスメント | 講義 | |
| 2 | 構成要素1:情報の分類、整理 | 講義・演習 | |
| 3 | 構成要素1:アセスメント①情報の分析、解釈 | | |
| 4 | 構成要素1:アセスメント②情報の分析、解釈 | | |
| 5 | 構成要素1:アセスメント③情報の分析、解釈、関連図 | | |
| 6 | 事例演習説明 | | |
| 7 | 看護過程演習① | 演習 | |
| 8 | 看護過程演習② | 演習 | |
| 9 | 看護過程演習③ | 演習 | |
| 10 | 看護過程演習④ | 演習 | |
| 11 | 構成要素2:問題の明確化、看護診断 | 講義 | |
| 12 | 看護過程演習⑤ | 演習 | |
| 13 | 構成要素3:看護計画立案、期待する結果、具体策 | 講義 | |
| 14 | 看護過程演習⑥ | 演習 | |
| 15 | 構成要素4:実施、構成要素5:評価 | 講義・演習 | |

III. 使用テキスト・参考文献

| |
|---|
| 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 患者さんの情報収集ガイドブック メヂカルフレンド社 看護過程に沿った対症看護 第5版 学研 看護診断ハンドブック 医学書院 |
|---|

IV. 成績評価の方法

| |
|---------------|
| 課題、提出物、参加状況 等 |
|---------------|

V. 実習との関連

| |
|---|
| 成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。 |
|---|

授業科目名 基礎看護方法論Ⅳ

(フィジカルアセスメント)

第二看護学科

1年次 後期

1単位 (30時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

適切なフィジカルイグザミネーションを行い、系統的に患者を観察することで、患者の「状態」を判断し、得られた情報から緊急性の有無や必要なケアを正しく判断するための観察技術の習得と思考過程を理解する。

目 標

- 1) フィジカルアセスメントの意義が理解できる。
- 2) 人体の構造・機能に関する知識をもとに問診とフィジカルイグザミネーションが正しい手技で実施でき、フィジカルアセスメントの根拠となる知識が理解できる。
- 3) 循環器、呼吸器、消化器、中枢神経系、感覚器のフィジカルアセスメントが根拠をもって実施できる。
- 4) フィジカルアセスメントの結果、正常・異常の判断ができる。
- 5) プライバシーに配慮しながら対象者を尊重した態度で関わることができる。
- 6) アセスメントした結果を記録・報告できる。

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|------------------------------|-------|----|
| 1 | フィジカルアセスメント概論 | 講義 | |
| 2 | 外皮系のフィジカルアセスメント/バイタルサイン測定の意義 | 演習 | |
| 3 | バイタルサイン測定① | 講義 | |
| 4 | バイタルサイン測定② | 演習 | |
| 5 | 呼吸器系のフィジカルアセスメント① | 講義 | |
| 6 | 呼吸器系のフィジカルアセスメント② | 演習 | |
| 7 | 循環器系のフィジカルアセスメント① | 講義 | |
| 8 | 循環器系のフィジカルアセスメント② | 演習 | |
| 9 | バイタルサイン測定を含むフィジカルアセスメント演習 | 演習 | |
| 10 | 消化器系のフィジカルアセスメント | 講義・演習 | |
| 11 | 運動系のフィジカルアセスメント | 講義・演習 | |
| 12 | 中枢神経系、感覚器系のフィジカルアセスメント① | | |
| 13 | 中枢神経系、感覚器系のフィジカルアセスメント② | | |
| 14 | シミュレーション演習① | | |
| 15 | シミュレーション演習② | | |

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院
 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、技術試験、出席状況、提出物、参加状況
 *筆記試験と技術試験両方合格することで、単位修得とする。

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習Ⅰを履修することができない。

| | |
|---------------------------------------|--------------------------------|
| 授業科目名 地域・在宅看護総論 I (地域の暮らしと健康を守る活動) | 第二看護学科 1年次 後期 1単位 (15時間) |
|---------------------------------------|--------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|---|
| ねらい 地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で、地域での健康と暮らしを支えるための看護を提供するための基礎的知識を学ぶ。 |
| 目 標 1) 地域の特徴を知る。 2) 地域で暮らしている人を知る。 3) 家族の機能と変遷について知る。 4) 地域で暮らしている人の健康状態について知る。 5) 地域で暮らしている人の健康を守る活動を知る。 |

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|---|---------------------------------|-------------------|----|
| 1 | 暮らしと地域① | 講義 グループ ワーク | |
| 2 | 暮らしと地域② | | |
| 3 | 暮らしと地域③ | | |
| 4 | 地域包括ケアシステム | | |
| 5 | 地域・在宅看護の対象 | | |
| 6 | 在宅療養の場における家族のとらえ方 | | |
| 7 | 地域で暮らしている人の健康を守る活動 (一次予防) (45分) | | |
| 8 | 地域で暮らしている人の健康を守る活動 (一次予防) | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| | |
|---|------|
| 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会 | 医学書院 |
|---|------|

IV. 成績評価の方法

| |
|------------|
| 筆記試験、提出物 等 |
|------------|

| | |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| 授業科目名 地域・在宅看護方法論Ⅱ (地域で療養する人への援助) | 第二看護学科 2年次 前期 1単位(30時間) |
|-------------------------------------|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|--|
| <p>ねらい</p> <p>療養者の健康レベルに応じた、生活ケアと医療的ケアの看護技術の方法を学ぶ。 また、療養者・家族が安心・安全に暮らせるよう、多職種や地域住民と連携する方法を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅で暮らす人とその家族への日常生活援助について理解できる。 2) 在宅で医療機器を使用する人の援助方法について理解できる。 3) 在宅でのリハビリテーションの目的と理学療法士と看護師の連携の実際を知る。 4) 在宅で暮らす人々への危機管理について理解できる。 5) 在宅で終末期にある人への看護について理解できる。 |
|--|

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|--------------------|-------|----|
| 1 | フィジカルアセスメント | 講義・演習 | |
| 2 | 住環境、清潔の援助 | | |
| 3 | 移動の援助 | | |
| 4 | 食事の援助、在宅経管栄養法の援助 | | |
| 5 | 在宅中心静脈栄養法の援助 | | |
| 6 | 排泄の援助、膀胱留置カテーテルの援助 | | |
| 7 | 自己導尿、ストマの援助 | | |
| 8 | CAPD、血液透析への援助 | | |
| 9 | 薬物療法への援助 | | |
| 10 | 在宅酸素療法の援助 | | |
| 11 | 人工呼吸療法の援助 | | |
| 12 | 在宅での安全管理、事故予防 | | |
| 13 | 在宅での感染予防、災害時の看護 | | |
| 14 | 在宅でのリハビリテーション | | |
| 15 | 看取りの看護 | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| | | | |
|-------------------------|------------|------------|------|
| 系統看護学講座 | 地域・在宅看護の基盤 | 地域・在宅看護論 1 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 地域・在宅看護の実践 | 地域・在宅看護論 2 | 医学書院 |
| 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第3版 | | | 医学書院 |

IV. 成績評価の方法

| |
|------------|
| 筆記試験、提出物 等 |
|------------|

授業科目名 地域・在宅看護方法論Ⅲ

(在宅看護活動の実際)

第二看護学科

2年次 後期

1単位 (30時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

病気や障害を持ちながらも、自分の生き方や暮らし方、療養方針やサービス利用について、療養者が主体的に自己決定し、自律した療養生活が営めるよう、療養者・家族のもつ力や強みに着目して看護実践を行うための方法を理解する。

目 標

- 1) 訪問看護の対象の健康と生活について理解できる。
- 2) 訪問看護の対象者と家族の看護上の問題について理解できる。
- 3) 訪問看護の対象者が活用している社会資源について理解できる。
- 4) 訪問看護における看護の意義と役割が理解できる。

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|----------------|-------|----|
| 1 | 事例展開：情報の読み取り① | | |
| 2 | 事例展開：情報の読み取り② | | |
| 3 | 事例展開：アセスメント① | | |
| 4 | 事例展開：アセスメント② | | |
| 5 | 事例展開：アセスメント③ | | |
| 6 | 事例展開：アセスメント④ | | |
| 7 | 事例展開：看護上の問題点 | | |
| 8 | 事例展開：看護目標・看護計画 | | |
| 9 | 訪問看護計画の立案① | | |
| 10 | 訪問看護計画の立案② | | |
| 11 | 看護の実際① | | |
| 12 | 看護の実際② | | |
| 13 | 看護の実際③ | | |
| 14 | 褥瘡ケアの実際 | | |
| 15 | 訪問看護の実際 | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| | | | |
|---------|------------|------------|------|
| 系統看護学講座 | 地域・在宅看護の基盤 | 地域・在宅看護論 1 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 地域・在宅看護の実践 | 地域・在宅看護論 2 | 医学書院 |

IV. 成績評価の方法

提出物、課題 等

| | |
|--------------|-------------------------------|
| 授業科目名 成人看護総論 | 第二看護学科 1年次 前期 1単位（15時間） |
|--------------|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|---|
| <p>ねらい</p> <p>成人期にある対象の特徴と現代社会において成人がおかれている状況を知り、健康の維持や健康問題に対する支援について理解する。</p> <p>目 標</p> <p>1) 発達段階と対象をとりまく環境を理解できる。</p> <p>2) 健康の保持増進のための看護について理解できる。</p> <p>3) 対象を看護するときの基本的なアプローチについて理解できる。</p> <p>4) 健康レベルに応じた看護について理解できる。</p> |
|---|

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|---|--|-------|----|
| 1 | 成人とは／成人期の特徴（45分） | 講義・演習 | |
| 2 | 成人をとりまく今日の状況 | | |
| 3 | 健康の保持・増進や疾病の予防に向けた看護 成人保健の動向 | | |
| 4 | 急性の状態にある人への看護 | | |
| 5 | 慢性的な経過をたどる健康障害を有する人への看護 （成人期にある人の教育的支援） | | |
| 6 | 生活機能障害のある人への看護 | | |
| 7 | 最期を迎える人への看護 | | |
| 8 | エンド・オブ・ライフ・ケア<end-of-life care> | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| | |
|--|------|
| 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会 | 医学書院 |
|--|------|

IV. 成績評価の方法

| |
|------------|
| 筆記試験、提出物 等 |
|------------|

| | |
|---|-------------------------------|
| 授業科目名 成人看護方法論Ⅰ (心身が急激に変化する状態・生活機能の再獲得時の看護) | 第二看護学科 2年次 前期 1単位(30時間) |
|---|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|---|
| ねらい 疾患や侵襲の大きな手術・外傷などにより生命の危機状態にある対象者の病態変化を予測し、合併症の予防などを管理・実践するための基礎的知識を学ぶ。また、急性期を脱し、機能回復のためのリハビリテーション、生活の再構築、社会復帰を目指して心身ともに回復するための支援について学ぶ。 |
| 目標 1) 急激な身体侵襲により急性期にある対象者の特徴と看護が理解できる。 2) 健康状態が急激に変化する疾患及び機能障害について理解できる。 3) 手術による機能障害により生活の変容が必要となる対象者とその家族に対する看護を理解できる。 4) 生活機能障害がおこる疾患及び機能障害について理解し、生活への影響を考えることができる。 5) 生活機能障害のある対象者を理解し、対象者とその家族の看護が理解できる。 6) 障害受容及び社会復帰への援助が理解できる。 |

II. 授業計画

| 回 | 授業内容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|---|-------|----|
| 1 | 循環機能障害のある対象者の看護、心臓リハビリテーション 不整脈で検査・治療を受ける対象者 | 講義・演習 | |
| 2 | 虚血性心疾患で検査・治療を受ける対象者 | | |
| 3 | 大血管疾患で検査・治療を受ける対象者 | | |
| 4 | 心不全で治療を受ける対象者 | | |
| 5 | 急激な生体侵襲により急性期にある対象者の特徴と看護 ①患者・家族への精神的支援と意思決定支援 ②緊急度と重症度のアセスメント、救急看護・クリティカルケアの基本 | | |
| 6 | 栄養摂取・排泄機能障害のある対象者の看護 胃がんで手術を受ける対象者 | | |
| 7 | 大腸がんで手術を受ける対象者 | | |
| 8 | 肝がんで治療を受ける対象者 | | |
| 9 | 感覚機能障害のある対象者の看護 視力障害のある対象者(網膜剥離) 聴力障害のある対象者(慢性中耳炎) | | |
| 10 | 脳・神経機能障害のある対象者の看護 (くも膜下出血・脳出血・脳梗塞・脳腫瘍) 頭蓋内圧亢進のある対象者 | | |
| 11 | 意識障害・高次脳機能障害のある対象者 | | |
| 12 | 運動障害・言語障害のある対象者 | | |
| 13 | 摂食・嚥下障害のある対象者 | | |
| 14 | 生活機能障害のある対象者の看護 リハビリテーション看護①(松葉杖) | | |
| 15 | リハビリテーション看護② | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| | | | | | | |
|---------|------|-------------|----------|---------|------|------|
| 系統看護学講座 | 専門分野 | 成人看護学 [3] | 循環器 [5] | 消化器 [7] | 脳・神経 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 専門分野 | 成人看護学 [10] | 運動器 [13] | 眼 [14] | 耳鼻咽喉 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 別巻 | 臨床外科看護総論 | | | | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 別巻 | クリティカルケア看護学 | | | | 医学書院 |

IV. 成績評価の方法

| |
|------------|
| 筆記試験、提出物 等 |
|------------|

| | |
|--------------------------------------|--------------------------------|
| 授業科目名 成人看護方法論Ⅱ (ヘルスマネジメント・終焉時の看護) | 第二看護学科 2年次 前期 1単位 (30時間) |
|--------------------------------------|--------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| | |
|-----|---|
| ねらい | 疾患や機能障害をかかえながら病と付き合うため長期的なケアや治療を生活の中で実践し、その人らしい生活が送れるよう対象者の力を高め支えるための支援の在り方を学ぶ。また、疾病が終末像を呈し、治癒を望めない段階にある対象者とその家族の苦痛を最大限緩和することや自分らしく生き抜くこと、自己実現を実感できる支援のあり方を学ぶ。 |
| 目標 | 1) 慢性的な経過をたどる健康障害をもたらす疾患及びその特徴が理解できる。 2) 慢性疾患を有する人を取り巻く環境、身体・心理的特徴が理解できる。 3) セルフマネジメントを促す看護を理解できる。 4) 病気とともに生きることを支える看護について理解できる。 5) 人生の最期のときを迎える対象者とその家族の自己決定を支える看護が理解できる。 6) 取り巻く環境、身体・心理的な変化が理解できる。 7) 全人的苦痛への看護が理解できる。 8) 喪失と悲嘆の概念および看護が理解できる。 |

II. 授業計画

| 回 | 授業内容 | 講義・演習 | 備考 |
|-------|--|-------|----|
| 1・2 | 代謝機能障害のある対象者の看護 糖尿病のある対象者①② | 講義・演習 | |
| 3 | 内分泌調節障害のある対象者の看護 下垂体前葉疾患・甲状腺疾患のある対象者 | | |
| 4 | 副腎疾患・下垂体後葉疾患のある対象者 | | |
| 5 | 排尿機能障害のある対象者の看護 腎不全で透析を受ける対象者 | | |
| 6 | 膀胱がん・尿路感染のある対象者 | | |
| 7 | 性・生殖機能障害のある対象者の看護 子宮がん・卵巣がん・乳がんのある対象者 | | |
| 8 | 呼吸機能障害のある対象者の看護 COPDで酸素療法を受ける対象者 | | |
| 9 | 肺がんで治療を受ける対象者 (手術療法・化学療法・放射線療法) | | |
| 10 | 検査・処置を受ける対象者 (気管支鏡・胸腔ドレナージ) | | |
| 11 | 身体防御機能の障害のある対象者の看護 白血病のある対象者 | | |
| 12 | 悪性リンパ腫のある対象者 | | |
| 13 | 緩和ケアを受ける対象者の看護 | | |
| 14・15 | 病気とともに生きることを支える看護①② (事例検討) | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| | | | |
|---------|------|------------------|------|
| 系統看護学講座 | 専門分野 | 成人看護学 [2] 呼吸器 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 専門分野 | 成人看護学 [4] 血液・造血器 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 専門分野 | 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 専門分野 | 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 専門分野 | 成人看護学 [9] 女性生殖器 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 別巻 | 臨床外科看護総論 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 別巻 | がん看護学 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 別巻 | 緩和ケア | 医学書院 |

IV. 成績評価の方法

| |
|------------|
| 筆記試験、提出物 等 |
|------------|

| | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 授業科目名 成人看護方法論Ⅲ (全体像の理解と思考過程の実際) | 第二看護学科 2年次 前期 1単位(15時間) |
|------------------------------------|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|--|
| <p>ねらい</p> <p>科学的根拠をもとに看護の過程における思考および技術を学ぶ。</p> <p>目 標</p> <p>1) 必要な情報から全体像の理解ができる。</p> <p>2) 看護の方向性が理解できる。</p> <p>3) 必要な看護の思考過程が理解できる。</p> <p>4) 必要な看護が安全安楽に実施および評価できる。</p> |
|--|

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|---|---|-------|----|
| 1 | 看護過程の考え方 | 講義・演習 | |
| 2 | 手術を受ける対象者の看護 (周手術期における事例展開) 対象者の理解 | | |
| 3 | 手術を受ける対象者の看護 (周手術期における事例展開) 看護上の問題の抽出及び統合 | | |
| 4 | 手術を受ける対象者の看護 (周手術期における事例展開) 計画立案、看護目標、期待する結果と具体策 | | |
| 5 | 手術を受ける対象者の看護 (周手術期における事例展開) 術後1日目の対象者の理解 | | |
| 6 | 手術を受ける対象者の看護 シミュレーション演習 | | |
| 7 | 手術を受ける対象者の看護 シミュレーション演習 | | |
| 8 | 手術を受ける高齢者の看護 実施・評価 | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| | |
|--------------------------------|------|
| 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 | 医学書院 |

IV. 成績評価の方法

| |
|------------|
| 筆記試験、提出物 等 |
|------------|

| | |
|--------------|-------------------------------|
| 授業科目名 老年看護総論 | 第二看護学科 1年次 後期 1単位(15時間) |
|--------------|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|--|
| <p>ねらい</p> <p>老年期にある対象の老化理論や発達課題をふまえた特徴を理解し、超高齢社会における社会制度や倫理的課題について学び、老年看護の基本的考え方を理解する。</p> <p>目 標</p> <p>1) 老年期にある対象の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解できる。 2) 老年期の対象と家族の、健康と生活を知り老年看護の機能と役割が理解できる。 3) 人生の最終段階である老年期の「生」や「死」について理解を深めることができる。</p> |
|--|

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|---|---|-------|----|
| 1 | 老年期の理解：老いるということ | 講義・演習 | |
| 2 | 老年期の理解：老いを生きるということ | | |
| 3 | 老年看護のなりたち | | |
| 4 | 超高齢社会と社会保障①：超高齢社会の統計的輪郭／ 高齢社会における保健医療福祉の動向 | | |
| 5 | 超高齢社会と社会保障②：高齢者の権利擁護 | | |
| 6 | 高齢者のヘルスアセスメント | | |
| 7 | 治療・介護を必要とする高齢者と家族の看護 | | |
| 8 | 高齢者のエンドオブライフケア（45分） | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| | |
|----------------------------|------|
| 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 | 医学書院 |
| 副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会 | |

IV. 成績評価の方法

| |
|--------|
| 筆記試験 等 |
|--------|

| | |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| 授業科目名 老年看護方法論 I (生活機能のアセスメントと看護) | 第二看護学科 2年次 前期 1単位(30時間) |
|-------------------------------------|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|--|
| <p>ねらい 高齢者の身体機能の低下が生活する場面にどのような影響を与えるのかを理解するとともに、加齢に伴う身体的・心理的・社会的機能の低下が誘因となって発症する健康障害のメカニズムと、家族も含めた看護について学ぶ</p> <p>目 標 1) 老年期に特有な疾患、症状、障害と看護について理解できる。 2) 老年期にある対象への健康の保持増進および自律的な日常生活や QOL 向上のために必要な援助が理解できる。</p> |
|--|

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|--|-------|----|
| 1 | 高齢者とのコミュニケーション・活動・睡眠 | 講義・演習 | |
| 2 | 高齢者の食事 | | |
| 3 | 高齢者の清潔・衣生活 | | |
| 4 | 高齢者の生活機能を整える看護 おむつ交換① | | |
| 5 | 高齢者の生活機能を整える看護 おむつ交換② | | |
| 6 | 高齢者の生活機能を整える看護 おむつ交換③ | | |
| 7 | 高齢者の生活機能を整える看護 おむつ交換④ | | |
| 8 | 検査を受ける高齢者の看護 | | |
| 9 | 薬物療法を受ける高齢者の看護 | | |
| 10 | 低栄養状態・脱水症状のある高齢者の看護 | | |
| 11 | 摂食、嚥下機能低下のある高齢者の看護 | | |
| 12 | 認知症のある高齢者の理解とその看護 認知症とうつ病とせん妄の違い① | | |
| 13 | 認知症のある高齢者の理解とその看護 それぞれの認知症の病態と要因、評価方法、治療② | | |
| 14 | 認知症のある高齢者の理解とその看護 認知症の症状・BPSD と生活への影響、援助③ | | |
| 15 | 認知症のある高齢者の理解とその看護 権利擁護のための社会的資源④ | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| | |
|-------------------------|------|
| 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 | 医学書院 |
| 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 | 医学書院 |

IV. 成績評価の方法

筆記試験 等

| | |
|---|-------------------------------|
| 授業科目名 老年看護方法論Ⅱ (高齢者に特徴的な疾患の看護とセルフケア支援) | 第二看護学科 2年次 後期 1単位(30時間) |
|---|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|--|
| ねらい 老年期にある対象者の健康障害の背景を理解し、健康や生活上の課題、もてる力を把握して、対象の望む自律した生活へ向かうための看護の方法を学ぶ |
| 目標 1) 治療を受ける高齢者と家族の看護について理解する。 2) 対象の健康障害を理解し、発達課題、加齢を踏まえたアセスメントをする。 |

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|---|-------|----|
| 1 | 運動機能障害を持つ高齢者と家族の看護(骨粗鬆症) | 講義・演習 | |
| 2 | 運動機能障害を持つ高齢者と家族の看護(転倒・骨折) | | |
| 3 | 運動機能障害を持つ高齢者と家族の看護 (変形性関節症・腰椎椎間板ヘルニア・脊髄損傷) | | |
| 4 | 高齢者の疾患と看護 (パーキンソン病・パーキンソン症候群) | | |
| 5 | 感覚機能障害を持つ高齢者の看護(聴覚障害・視覚障害) | | |
| 6 | 排泄機能障害を持つ高齢者の看護(排尿障害・排便障害) | | |
| 7 | 高齢者の疾患と看護(前立腺肥大症・前立腺がん) | | |
| 8 | 皮膚障害を持つ高齢者の看護(熱傷・褥瘡) | | |
| 9 | 感染症を有する高齢者の看護 (インフルエンザ・ノロウイルス) | | |
| 10 | セルフケア向上に向けた援助計画(目標志向型思考) もてる力に着目した計画立案、看護の焦点と具体策① | | |
| 11 | セルフケア向上に向けた援助の実践と評価② | | |
| 12 | 自律した生活に向けた援助計画(目標志向型思考) 退院後の生活を見据えた計画立案、看護の焦点と具体策③ | | |
| 13 | 自律した生活に向けた援助の実践と評価④ | | |
| 14 | 高齢者のフィジカルアセスメント① | | |
| 15 | 高齢者のフィジカルアセスメント② | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| | | | |
|---------|------|----------------|------|
| 系統看護学講座 | 専門分野 | 老年看護学 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 専門分野 | 老年看護病態・疾患論 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 | 専門分野 | 成人看護学 [10] 運動器 | 医学書院 |

IV. 成績評価の方法

| |
|------------|
| 筆記試験、提出物 等 |
|------------|

| | |
|--------------|--------------------------------|
| 授業科目名 小児看護総論 | 第二看護学科 2年次 前期 1単位 (15時間) |
|--------------|--------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|--|
| <p>ねらい</p> <p>看護の対象となる子どもの特徴を理解し、より健やかに成長・発達をとげられるよう、社会全体の取り組みや子どもの健康のとらえ方と看護の役割を学ぶ。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護の特徴と理念について理解できる。 2) 小児看護における倫理、倫理的問題を理解できる。 3) 子どもの特性、発達過程や評価の方法について理解できる。 4) 子どもの日常生活の世話と看護の実際について理解できる。 5) 子どもを取り巻く環境について理解できる。 |
|--|

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|---|------------------------------|-------|----|
| 1 | 小児看護の特徴と理念、小児看護における倫理 | 講義・演習 | |
| 2 | 子どもと家族を取り巻く社会 | | |
| 3 | 子どもの成長・発達、子どもの栄養 | | |
| 4 | 発達段階における特徴、養育と看護 新生児・乳児 | | |
| 5 | 発達段階における特徴、養育と看護 幼児・学童 | | |
| 6 | 発達段階における特徴と看護 思春期・青年期の子ども | | |
| 7 | 家族の特徴とアセスメント | | |
| 8 | 子どもの虐待と看護 | | |

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会

IV. 成績評価の方法

レポート、筆記試験

| | |
|-----------------|--------------------------------|
| 授業科目名 小児看護方法論 I | 第二看護学科 2年次 前期 1単位 (30時間) |
|-----------------|--------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|--|
| <p>ねらい</p> <p>主な疾患や小児保健医療の課題である事故・外傷の病態・症状・診断・治療について、子どもの成長・発達といった特徴をふまえて学ぶ。</p> <p>子どもの状態に応じた看護を学ぶ。</p> <p>目 標</p> <p>1) 子どもに特徴的な疾患の症状、治療、検査について理解できる。</p> <p>2) 症状別看護、検査・処置時の看護、子どものアセスメント方法について理解できる。</p> |
|--|

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|---|-------|----|
| 1 | 染色体異常、代謝異常、新生児疾患 | 講義 | |
| 2 | 感染症、アレルギー、膠原病、リウマチ | | |
| 3 | 呼吸器疾患、循環器疾患 (川崎病) | | |
| 4 | 消化器疾患、腎疾患、内分泌疾患 | | |
| 5 | 血液・造血器疾患、悪性新生物 | | |
| 6 | 脳神経疾患、皮膚疾患、精神疾患 | | |
| 7 | 事故・外傷、虐待 | | |
| 8 | 子どもの救命処置、事故・外傷と看護 | 講義・演習 | |
| 9 | 症状を示す子どもの看護 | | |
| 10 | 症状を示す子どもの看護 | | |
| 11 | 子どものアセスメント コミュニケーション、バイタルサイン、身体測定、身体的アセスメントの方法 | | |
| 12 | 子どものアセスメント コミュニケーション、バイタルサイン、身体測定、身体的アセスメントの方法 | | |
| 13 | 検査・処置を受ける子どもの看護 | | |
| 14 | プレパレーション | | |
| 15 | 医療的処置が必要な新生児の看護 | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| |
|--|
| 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院 |
|--|

IV. 成績評価の方法

| |
|---------------|
| 筆記試験、課題、提出物 等 |
|---------------|

授業科目名 小児看護方法論Ⅱ

第二看護学科
2年次 後期
1単位(30時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

子どもに特徴的な疾患の看護と、子どもの状況を踏まえた看護過程について理解する。

目標

- 1) さまざまな健康レベルや状況に応じた子どもの看護が理解できる。
- 2) 家族への看護の必要性と実際が理解できる。
- 3) 子どもに特徴的な疾患の看護が理解できる。
- 4) 状態に応じて必要な看護援助が理解できる。

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|--|---------------|----|
| 1 | 病気・障がいを持つ子どもと家族の看護 障害(知的障害等も含む)のある子どもと家族の看護 | 講義・演習 | |
| 2 | 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護[入院・外来] | | |
| 3 | 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護[在宅療養・災害] | | |
| 4 | 子どもにおける疾病の経過と看護 | | |
| 5 | 事例1: 気管支喘息 | | |
| 6 | 事例2: 1型糖尿病 | | |
| 7 | 事例3: ファロー四徴症患者の看護 | | |
| 8 | 事例4: ネフローゼ患児の看護 | | |
| 9 | 事例4: ネフローゼ患児の看護 看護過程の基本となるもの ゴードンの健康パターンに沿った小児の視点 | 看護過程 講義・演習 | |
| 10 | 事例4: ネフローゼ患児の看護 11の健康パターンの視点に沿ったアセスメント | | |
| 11 | 事例5: 川崎病 事例紹介 看護過程オリエンテーション | | |
| 12 | 事例5: 川崎病 アセスメント、問題点の抽出、計画立案 | | |
| 13 | 事例5: 川崎病 技術演習 検温シミュレーション演習/全体像 | | |
| 14 | 事例5: 川崎病 検温デモンストレーション・SOAP | | |
| 15 | 事例5: 川崎病 看護計画作成 | | |

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院

IV. 成績評価の方法

看護過程、レポート、提出物、筆記試験 等

| | |
|--------------|--------------------------------|
| 授業科目名 母性看護総論 | 第二看護学科 2年次 前期 1単位 (15時間) |
|--------------|--------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

ねらい

女性の持つ身体的特性とそれぞれの時代や文化・社会の影響を受けて変化する母性行動を理解し、女性が母性として健康的に成熟しその人なりに次世代の健全育成のために発揮できるよう支援する方法を学ぶ。

目標

- 1) 生命誕生と生命倫理について、医療の発達や社会的背景の変化を踏まえて考察することができる。
- 2) 母性看護を考える上での基盤となる概念が理解できる。
- 3) 母子保健活動や法制度、現代家族の現状と課題を理解し、看護職としての役割を考察することができる。
- 4) ライフサイクル各期の身体的・心理的・社会的変化とその特徴が理解できる。
- 5) ライフサイクル各期に必要な保健指導、健康障害時の看護について理解できる。
- 6) 現代の性と生殖を取り巻く現状と課題、看護師の役割が理解できる。

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|---|---|-------|----|
| 1 | 対象理解の基盤となる概念 リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション リプロダクティブヘルス/ライツに関する世界・日本の動向 | 講義 | |
| 2 | 性の健康、生殖補助医療、生命倫理 母性・父性・親性の発達、母子関係と愛着 | | |
| 3 | 母性看護の歴史的変遷と現状 周産期医療のシステム 母子保健統計と母性看護にかかわる施策 | | |
| 4 | 母子保健統計と母性看護にかかわる施策 母子保健法に関する施策の活用 子育て支援に関する施策の活用 | | |
| 5 | 生殖に関する生理 性周期 思春期の健康と健康課題 | | |
| 6 | 思春期の健康と健康課題 成熟期の健康と健康課題 | | |
| 7 | 更年期の健康と健康課題 | | |
| 8 | 老年期の健康と健康課題 | | |

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院
副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

| | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 授業科目名 母性看護方法論 I (周産期にある母子への看護) | 第二看護学科 2年次 前期 1単位 (30時間) |
|-----------------------------------|--------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|---|
| ねらい 周産期の生理と異常、必要な看護を学ぶ。 |
| 目標 1) 妊娠・分娩・産褥における生理と異常について理解できる。 2) 新生児の生理と異常が理解できる。 3) 正常な経過の妊産褥婦と新生児への看護が理解できる。 4) 異常な経過の妊産褥婦と新生児への看護が理解できる。 |

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|----------------------------------|-------|----|
| 1 | 正常な妊娠の経過 | 講義 | |
| 2 | 妊婦と胎児の健康と生活のアセスメント | | |
| 3 | 妊婦と家族への看護 | | |
| 4 | 妊娠期の健康問題に対する看護 | | |
| 5 | 妊娠期の健康問題に対する看護 | | |
| 6 | 正常な分娩の経過 産婦の健康と生活のアセスメント | | |
| 7 | 産婦と家族への看護 | | |
| 8 | 分娩期の健康問題に対する看護 | | |
| 9 | 褥婦の健康と生活のアセスメント | | |
| 10 | 褥婦と家族への看護 | | |
| 11 | 産褥期の健康問題に対する看護 | | |
| 12 | 産褥期の健康問題に対する看護 | | |
| 13 | 新生児の特徴と生理的変化 新生児の健康と生活のアセスメント | | |
| 14 | 新生児と家族への看護 | | |
| 15 | 新生児の健康問題に対する看護 | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| |
|------------------------------------|
| 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 |
|------------------------------------|

IV. 成績評価の方法

| |
|------------|
| 筆記試験、提出物 等 |
|------------|

授業科目名 母性看護方法論Ⅱ

(周産期にある母子への援助の実際)

第二看護学科

2年次 後期

1単位 (30時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

周産期の生理と異常、必要な看護を学ぶ。

目標

- 1) 妊娠、分娩、産褥の一連の流れを踏まえたアセスメントができる。
- 2) 母子とその家族への看護を考えることができる。
- 3) 母子とその家族に必要な看護技術を習得することができる。
- 4) 母子とその家族に必要な保健指導が理解できる。

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|--------------------------|-------|----|
| 1 | 事例の理解・思考 (看護過程) 妊娠期 | 講義/演習 | |
| 2 | 事例の理解・思考 (看護過程) 分娩期 | | |
| 3 | 事例の理解・思考 (看護過程) 産褥期 | | |
| 4 | 事例の理解・思考 (看護過程) 産褥期 | | |
| 5 | 事例の理解・思考 (看護過程) 新生児 | | |
| 6 | 事例の対象者に必要な看護 (看護過程) 看護目標 | | |
| 7 | 事例の対象者に必要な看護 (看護過程) 看護計画 | | |
| 8 | 事例の対象者に必要な看護 (看護過程) 実習目標 | | |
| 9 | 看護技術 観察技法、看護技術 | 演習 | |
| 10 | 看護技術 新生児の清潔援助技術 | | |
| 11 | 看護技術 新生児の清潔援助技術 | | |
| 12 | 看護技術 沐浴技術チェック パンフレット作成 | | |
| 13 | 保健指導 計画立案 | 演習 | |
| 14 | 保健指導 計画立案・実施の準備 | | |
| 15 | 保健指導 実施 (ロールプレイ) | | |

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、グループワーク作成物・参加状況の総合的評価

| | |
|--------------|-------------------------------|
| 授業科目名 精神看護総論 | 第二看護学科 2年次 後期 1単位（30時間） |
|--------------|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|--|
| <p>ねらい</p> <p>心の健康をふまえ、精神の健康の維持・増進のために必要な知識を学び、精神保健医療福祉に関する法律・制度の変遷と精神看護の役割を理解する。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 心の健康とその基盤となる理論が理解できる。 2) 精神医療や権利擁護の変遷をふまえ、法律や制度が理解できる。 3) 行動制限と看護について理解できる。 4) 精神障害者の地域生活を支える制度と職種が理解できる。 5) リエゾン精神看護が理解できる。 |
|--|

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|---------------------------------------|-------|----|
| 1 | 心の健康 | 講義 | |
| 2 | 防衛機制 | | |
| 3 | 心の健康と危機理論 | | |
| 4 | ストレスと対処 災害と精神保健 | | |
| 5 | 諸外国における精神医療の歴史 | | |
| 6 | 日本における精神医療の歴史 | | |
| 7 | 精神保健福祉法 | | |
| 8 | 精神保健福祉に関する法律 (心神喪失者等医療観察法、自殺対策基本法) | | |
| 9 | 権利擁護 | | |
| 10 | 精神医療における入院環境 | | |
| 11 | 行動制限 | | |
| 12 | 行政の役割：精神保健福祉センターの役割と活動内容 | | |
| 13 | 障害者総合支援法に基づくサービス | | |
| 14 | 地域生活を支えるサービスに関わる職種と役割 | | |
| 15 | リエゾン精神看護 | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| | | |
|----------------------------|---------|------|
| 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 | 精神看護学 1 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 | 精神看護学 2 | 医学書院 |
| 副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会 | | |

IV. 成績評価の方法

| |
|--------------------------------|
| 筆記試験、提出物、グループワーク作成物・参加状況の総合的評価 |
|--------------------------------|

| | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 授業科目名 精神看護方法論 I (精神障害のある対象者の理解) | 第二看護学科 2年次 後期 1単位(30時間) |
|------------------------------------|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|---|
| <p>ねらい</p> <p>主な精神疾患の病因、症状、経過、検査と治療を学び、精神障害のある対象者への理解を深める。精神症状や状態像への看護を理解する。</p> <p>目 標</p> <p>1) 精神疾患の要因、症状、検査、治療が理解できる。</p> <p>2) 精神科における治療が理解できる。</p> <p>3) 精神疾患患者の治療における看護が理解できる。</p> <p>4) 精神症状や状態像を把握する方法とその看護が理解できる。</p> |
|---|

II. 授業計画

| 回 | 授業内容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|-----------------------------------|-------|----|
| 1 | 精神科医療について、精神疾患の診断・分類 パーソナリティ障害 | 講義 | |
| 2 | 神経発達障害、知的能力障害 | | |
| 3 | 認知症 | | |
| 4 | 摂食障害、精神作用物質関連障害 | | |
| 5 | 気分障害、自殺・自傷 | | |
| 6 | 神経性障害、精神症状と状態像 | | |
| 7 | 統合失調症 | | |
| 8 | 幻覚・妄想・暴力のある患者の看護 | | |
| 9 | 不安・強迫症・拒否のある患者の看護 | | |
| 10 | うつ状態・躁状態・依存のある患者の看護 | | |
| 11 | 認知行動療法 | | |
| 12 | 認知行動療法 | | |
| 13 | 集団精神療法 生活技能訓練 | | |
| 14 | 地域生活を支えるデイケア | | |
| 15 | 地域生活を支える訪問看護 | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| | | |
|----------------------|---------|------|
| 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 | 精神看護学 1 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 | 精神看護学 2 | 医学書院 |

IV. 成績評価の方法

| |
|-----------|
| 筆記試験、提出物等 |
|-----------|

| | |
|---------------------------------------|--------------------------------|
| 授業科目名 精神看護方法論Ⅱ (精神障害のある対象者への援助の実際) | 第二看護学科 2年次 後期 1単位 (30時間) |
|---------------------------------------|--------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|---|
| ねらい 精神看護の対象者に適切な看護を展開するために、精神障害者の疾患への受け止め方を理解し、必要な援助関係を構築するための基本技術を理解する。 |
| 目標 1) 精神障害が対象の身体と生活に及ぼす影響が理解できる。 2) 精神に障害のある対象の健康状態を判断し、対象の力を活かした生活援助が理解できる。 3) 精神症状に応じた治療内容と対象への援助が理解できる。 4) コミュニケーションを活用した援助関係の構築が理解できる。 |

II. 授業計画

| 回 | 授業内容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|---|-------|----|
| 1 | ストレングス リカバリー 入院患者・長期入院患者への退院支援 家族への看護 セルフヘルプグループ | 講義・演習 | |
| 2 | 精神障害者の疾患・治療への受け止め方と看護 信頼関係の基盤作り：観察、患者－看護師関係の形成 | | |
| 3 | 治療的コミュニケーション技法 プロセスレコード | | |
| 4 | プロセスレコード | | |
| 5 | セルフケア理論 | | |
| 6 | 精神疾患の事例で看護を展開する：アセスメント | | |
| 7 | 精神疾患の事例で看護を展開する：アセスメント | | |
| 8 | 精神疾患の事例で看護を展開する：アセスメント | | |
| 9 | セルフケア理論 | | |
| 10 | 精神疾患の事例で看護を展開する：目標設定、計画立案 | | |
| 11 | 精神疾患の事例で看護を展開する：計画立案 | | |
| 12 | 精神疾患患者の治療（作業療法）とその看護 | | |
| 13 | 精神障害者の治療への理解や治療参加を目指した支援（演習） | | |
| 14 | 精神障害者の治療への理解や治療参加を目指した支援（演習） | | |
| 15 | 精神疾患の事例で看護を展開する：計画立案 まとめ | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| |
|--|
| 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学 1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学 2 医学書院 |
|--|

IV. 成績評価の方法

| |
|--------------------------------|
| 筆記試験、提出物、グループワーク作成物・参加状況の総合的評価 |
|--------------------------------|

| | |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 授業科目名 統合看護総論 I (医療安全・災害看護・国際看護) | 第二看護学科 2年次 後期 1単位 (30時間) |
|------------------------------------|--------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

| |
|---|
| <p>ねらい</p> <p>看護行為、医薬品、医療器具、患者に存在する危険を認識する能力を持つことの重要性を理解し、看護事故の発生要因を知り、防止策を学ぶ。グローバル化が進んだ現代の世界において、国境を越えて広域的に発生している健康問題の現状を学び、国際看護学の取扱う課題について考えを深める。また、災害により被害が拡大している状況において、被災者への身体的、精神的、社会的な影響について学び、その防災対策や救護・看護のあり方について理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護行為、医薬品、医療器具、患者に存在する危険を認識する能力を持つことの重要性を理解する。 2) 看護事故の発生要因を知り、防止策について理解する。 3) 国際社会の現状を学び、看護師としての役割を考える。 4) 災害看護の基礎的知識を身につけ、方法について理解する。 |
|---|

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 | |
|----|--|-------|----|----|
| 1 | 医療安全：医療安全の概念と安全行動について | 講義 | | |
| 2 | 医療事故防止 | | | |
| 3 | 診療の補助行為における事故事例と対策 療養上の世話における事故事例と対策 看護職の責任と法的責任 | | | |
| 4 | 医療安全演習：看護に必要な計算 ヒヤリハット体 | | | |
| 5 | 験 医薬品、医療機器の知識 | | | |
| 6 | リスクトレーニング | | | |
| 7 | 国際看護：グローバルな視点で看護を考えるために | | | |
| 8 | 必要な基本的知識の導入 | | | |
| 9 | 災害看護：災害看護概論 | | | |
| 10 | 急性期・亜急性期における被災者の特徴と看護活動 | | | |
| 11 | 慢性期・復興期における被災者の特徴と看護活動 | | | |
| 12 | 救急法（救急看護）止血法、災害時の応急処置 | | | |
| 13 | 心肺蘇生法・AED | | | 演習 |
| 14 | | | | |
| 15 | 包帯法・止血法 | | | |

III. 使用テキスト・参考文献

| |
|--|
| <p>看護の統合と実践〔2〕医療安全 医学書院</p> <p>看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学 医学書院</p> <p>基礎看護〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>川村治子著 医療安全ワークブック 医学書院</p> |
|--|

IV. 成績評価の方法

| |
|--|
| <p>筆記試験、レポート、提出物 等</p> <p>*包帯法・止血法の演習を欠課した場合、補習が必要となる。</p> |
|--|

| | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 授業科目名 統合看護総論Ⅱ (看護マネジメント) | 第二看護学科 3年次 前期 1単位(30時間) |
|-----------------------------|-------------------------------|

I. 授業のねらい・目標

ねらい

専門職として、看護の質を保証し、維持するための取り組みの実際を理解する。看護の実践を確かなものにした看護理論とは何かを学び、看護が学問的發展を果たしてきた背景を知る。また、看護実践の基盤となる対象を尊敬し、尊重する態度を体現できる行動を理解できる

目標

- 1) 看護を提供するために必要なマネジメントについて理解できる。
- 2) 看護マネジメントに必要な基礎知識や提供するためのシステムを理解できる。
- 3) チーム医療における多職種との連携・協働について理解できる。
- 4) 感染管理の基礎的知識を理解できる。

II. 授業計画

| 回 | 授業内容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|--------------------------------------|----------|----|
| 1 | 看護管理 | 講義 | |
| 2 | 看護管理の基本となるもの | | |
| 3 | 看護師の仕事とその管理・看護の質向上 | | |
| 4 | 看護の質保障、看護管理に求められる能力看護職とキャリア | | |
| 5 | 看護職とキャリア看護と経営看護活動を取り巻く法律・制度 | | |
| 6 | 感染管理 | | |
| 7 | 学問としての看護 理論 | | |
| 8 | | | |
| 9 | 医療・看護の倫理原則について 患者の権利擁護者としての看護者の役割 | 講義 演習 | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版
副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会

IV. 成績評価の方法

筆記試験、レポート、提出物 等

授業科目名 統合看護方法論 I

第二看護学科

3年次 前期

1単位 (30時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

看護研究が理解でき、ケーススタディで看護を深めることができる。

目 標

- 1) 看護研究の意義や必要性について理解できる。
- 2) 看護研究の種類やその実際/倫理的配慮について理解できる。
- 3) 文献検索の方法を知り、必要な文献を探すことができる。
- 4) ケーススタディの実施方法を理解し、個人で計画的に取り組むことができる。

II. 授業計画

| 回 | 授 業 内 容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|------------------------|-------|----|
| 1 | 研究とは 看護研究とは | 講義・演習 | |
| 2 | 研究の種類とそのプロセス | | |
| 3 | 文献検索 文献の読み方 | | |
| 4 | 文献検索の実際 看護論について | | |
| 5 | ケーススタディとは | | |
| 6 | 研究計画書 | | |
| 7 | ケーススタディのオリエンテーション | | |
| 8 | 看護研究の実際 (ケーススタディの指導日①) | | |
| 9 | 看護研究の実際 (ケーススタディの指導日②) | | |
| 10 | 看護研究の実際 (ケーススタディの指導日③) | | |
| 11 | ケーススタディ発表① | | |
| 12 | ケーススタディ発表② | | |
| 13 | ケーススタディ発表③ | | |
| 14 | ケーススタディ発表④ | | |
| 15 | 県下看護学校研究発表会参加 | | |

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ①看護学概論 メディカ出版

IV. 成績評価の方法

参加状況、提出物

授業科目名 統合看護方法論Ⅱ

第二看護学科
3年次 前期
1単位(30時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

複数患者を受け持ち、安全な看護を提供するために、知識・技術を統合し、看護を展開する方法について理解できる。

目標

- 1) 必要な情報を収集することにより、患者の現在の状態に応じた看護を考えられる視点を身につけ、看護業務遂行のためのタイムマネジメントができる。
- 2) 複数患者を受け持ち、同時多重課題への対処が考えられ、行動できる。
- 3) 医療チームの一員としてのマネジメントが理解できる。
- 4) 演習を通して自己学修へ向かうことができる。

II. 授業計画

| 回 | 授業内容 | 講義・演習 | 備考 |
|----|----------------------------------|-------|----|
| 1 | ガイダンス | 講義・演習 | |
| 2 | 複数患者の情報収集とタイムマネジメント | | |
| 3 | 演習①(複数患者を受け持つ看護場面): オリエンテーション | | |
| 4 | 演習①: ミニカンファレンス | | |
| 5 | 演習①: 検温、SBAR | | |
| 6 | 演習①: まとめ | | |
| 7 | 演習②(多重課題): オリエンテーション | | |
| 8 | 演習②: 演習(その1) | | |
| 9 | 演習②: 演習(その2) | | |
| 10 | 演習②: まとめ | | |
| 11 | 統合看護実習に向けて 実習記録の書き方 | | |
| 12 | 演習③(臨床場面を取り上げた演習): オリエンテーション | | |
| 13 | 演習③: 演習(その1) | | |
| 14 | 演習③: 演習(その2) | | |
| 15 | 演習③: まとめ | | |

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版
川村治子著 医療安全ワークブック 医学書院

IV. 成績評価の方法

出席状況、参加状況、提出物

